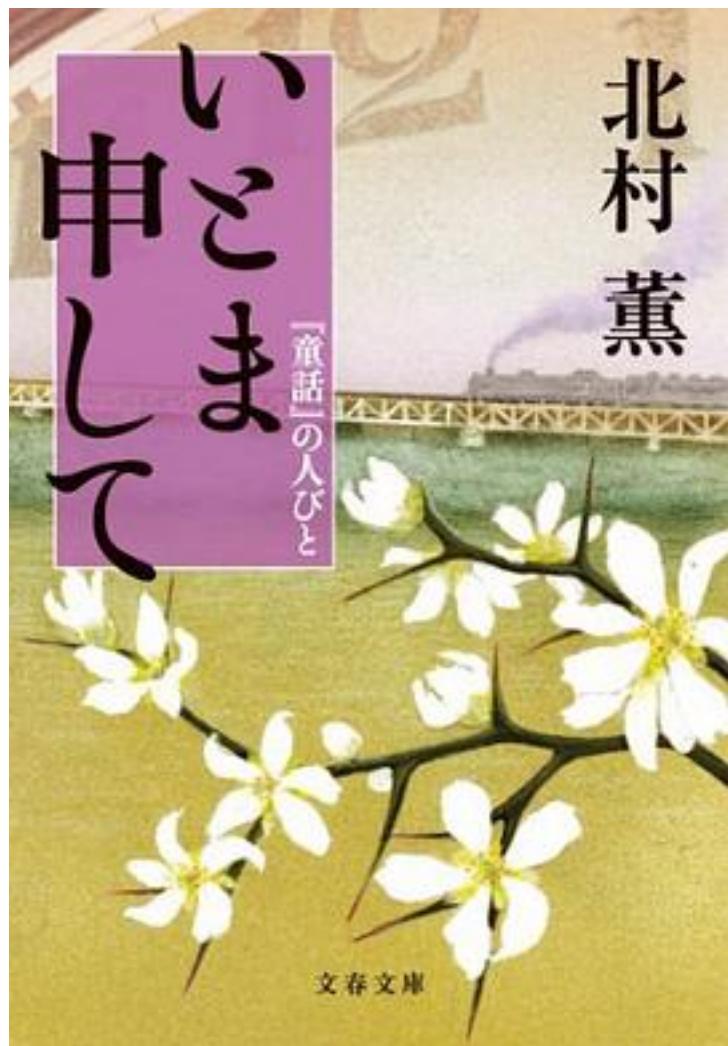


いとま申して『童話』の人びと



[いとま申して『童話』の人びと_下载链接1](#)

著者:北村 薫

出版者:文藝春秋

出版时间:2013-8-6

装帧:文庫

isbn:9784167586089

父が遺した日記に綴られていたのは、旧制中学に学び、読書と映画を愛し、創作と投稿に夢を追う父と友人たちの姿だった。そして彼らが夢を託した雑誌「童話」には、金子みすゞ、淀川長治と並んで父の名が記されていた。著者の父の日記をもとに、大正末から昭和初年の主人公の青春を描く、評伝風小説。

作者介绍:

目录:

[いとま申して『童話』の人びと](#) [下载链接1](#)

标签

北村薰

日本文学

日本

小説家類

评论

买来之后过了两年才读完这部“吾家先世中医之学”一样的群像剧。一位四十岁才出道的作家，晚年所写的、却是其曾为杂志少年写手的父亲如何放弃文学创作的故事，这用心或许是值得深思的。又，对青年川端作为脚本担当的电影「狂った一頁」很是好奇。

本を貸してくださった時「悪意には耐えられない」と言った千早先輩の考え方とは少し違うかもしれないが、悪意とか皮肉とかより一番重要なのは青春、特に大正時代の青春に対する感傷だと思ったのである。「父」の日記とは無論私的な物であり、自分の心弱さや生意気などいっぱい書かれていたが、一方個人の弱みも時代を映っていたのではないでしょうか。歴史とフィクションは完璧に絡み合い、生き生きしい青春像をしみじみに感じられると思ったのである。ところが、第十一章が雰囲気一変したと思ったのである。急に同人誌の編集を解散し、今までの努力は全て無駄だと相當に落ち込んでいた「父」は、「だが而し、かうして日記帳を約十冊書き伝へた…これは僕

の記録である。僕の遺書である」と書いたのであった。辛くて空しくて、耐えられないものであった。

[いとま申して『童話』の人びと](#) [下载链接1](#)

书评

[いとま申して『童話』の人びと](#) [下载链接1](#)